

ガマヨトウ *Capsula aerata* (Butler, 1878)

ヤガ科 Noctuidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-b) 変更コード 7

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

開張 33~42 mm。オスの触角はわずかに鋸歯状、顔は円錐形に突出する。前翅は黄褐色ないし橙褐色。黒ずんだ暗褐色、中室下縁に沿う黒色条と中室端に 1 小白点を呈する。後翅は黄白色。成虫は年 1 化、7~8 月に出現する。大型の湿生単子葉植物の borer で、ガマの茎内から幼虫がえられている。

2. 分布

国外ではロシア南東部に、国内では北海道、本州(青森県、秋田県、岩手県、宮城県、新潟県、石川県、群馬県、千葉県、愛知県、岐阜県)で記録がある。県内では磐田市桶ヶ谷沼・鶴ヶ池で記録がある。

3. 生息環境

ガマなどの生育する湿地。

4. 生息状況

1999 年 6 月に磐田市桶ヶ谷沼で 1 個体、また最近では 2017 年 6 月に磐田市鶴ヶ池で確認されている。

5. 減少の主要因と脅威

本種の生息環境である湿地環境は、開発 (23)、遷移 (54) などで減少している。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

環境省 編 (2015) の改訂版レッドデータブックに掲載されるようになった種である。

8. 主な文献

杉 繁郎 (1982) ガマヨトウ. 井上 寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 日本産蛾類大図鑑 1: 751; 2: 366, pl 184. 講談社, 東京.

佐藤力夫 (1984) ガマヨトウはガマにつく. 誘蛾燈, (96): 86

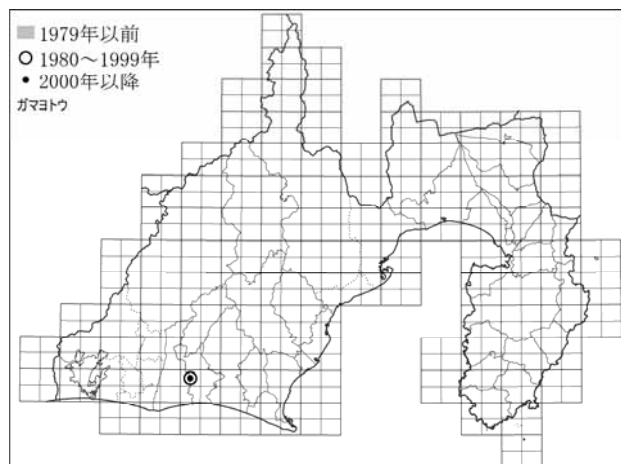
枝恵太郎・四方圭一郎 (2011) ヤガ科キリガ亜科. 岸田泰則 編, 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ, pp. 323-367. 学研教育出版, 東京.

9. 標本

磐田市桶ヶ谷沼・鶴ヶ池産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



磐田市産♂上面 2017年6月23日 浦山幸夫



(枝恵太郎)

フジシロミヤクヨトウ *Sideridis kitti* (Schawerda, 1914)

ヤガ科 Noctuidae

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更コード 7

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

開張約 40 mm。オスの触角は微毛状。前翅地色は黒色で内・外横線、環状紋、腎状紋は白色を呈する。亜外縁線も白色で明瞭。成虫は 7 月に採集される。食草はマメ科ムラサキモメンヅル、ソラマメ属、ゲンゲ属。

2. 分布

国外ではヨーロッパ (主にアルプス山脈)、ウラル山脈南部、中央アジア、トルキスタン、モンゴル、シベリア南部に、国内では富士山だけに分布する。日本唯一の産地であって、富士山における食草ムラサキモメンヅルの分布と一致する。

3. 生息環境

富士山 5 合目 (約 2,400 m) の森林限界付近に多産する。特に大きな環境の変化は見られない。

4. 生息状況

2011 年 7 月の調査では、富士山 5 合目 (約 2,400 m) 付近において 20 個体以上確認された。

5. 減少の主要因と脅威

観光客の増加による生息環境の悪化 (51)。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

環境省 編 (2015) の改訂版レッドデータブックに掲載されるようになった種である。

8. 主な文献

杉 繁郎 (1965) *Heliophobus texturatus* (Alphéraky) フジシロミヤクヨトウ (新称) 日本に産す. 蝶と蛾, 16: 50-51

井上 寛 (1971) 4 富士山の高山帯で発見された蛾類ならびに富士特産のヤガについて. 黒田長久 編, 富士山地域の動物相 (in 富士山 富士山総合学術調査報告書), pp. 984-994. 富士急行株式会社・財団法人堀内浩庵会, 富士吉田.

中村正直・山本光人 (1987) フジシロミヤクヨトウの幼虫と蛹 (富士山亜高山帯砂礫地帯の蛾 I). 蛾類通信, (142): 267-270

吉松慎一 (2011) ヤガ科ヨトウガ亜科. 岸田泰則 編, 日本産蛾類標準図鑑 II, pp. 368-384. 学研教育出版, 東京.

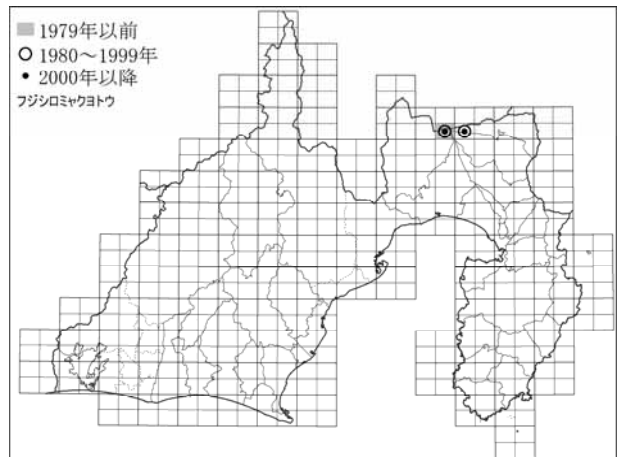
9. 標本

富士宮市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(枝恵太郎)



小山町♂上面 2015年7月23日 飯森政宏



1. 種の解説

体長 17~50 mm。無翅。肢は黄色。オスのハサミは左右不対象。オスの腹部第 3~7 (ときには 3~9) 背板側部に隆起縁がある。オスの垂末端腹板の後縁は直線状。体色には変化があり、黒い個体はハマベハサミムシ *A. maritima* (Bonelli, 1832) に似ているが、前胸背板が長いことで識別できる。メスのハサミは長い。

2. 分布

国外では韓国に、国内では本州、四国、九州、南西諸島、伊豆諸島などに分布する。県内では伊豆に分布する。県内における記録はほとんどなく、松崎町岩地、下田市吉佐美で採集された記録しかない。

3. 生息環境

主に岩石海岸の岩の割れ目や隙間などに住む。小規模な堤防にはその隙間などにも生息する。

4. 生息状況

十分な情報がえられていないためよくわからないが、生息密度はかなり低いものと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

海岸開発、護岸工事など (14)。さらに調査が必要だが、開発による影響を強く受ける種と考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

記載前はハサミムシ茶色長鋏型として知られていた。

8. 主な文献

石川 均 (2014) イソハサミムシを下田市で採集. 月刊むし, (526): 15-16

日本直翅類学会 編 (2016) 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス, 東京, 384 pp.

Nishikawa, M. (2008) A new species of the genus *Anisolabis* from Japan and Korea, with notes on the nomenclatural problem of two subspecific names of *Anisolabis maritima* (Bonelli) (Dermaptera: Anisolabididae). *Ins. Matsm. (N. S.)*, 64: 35-51

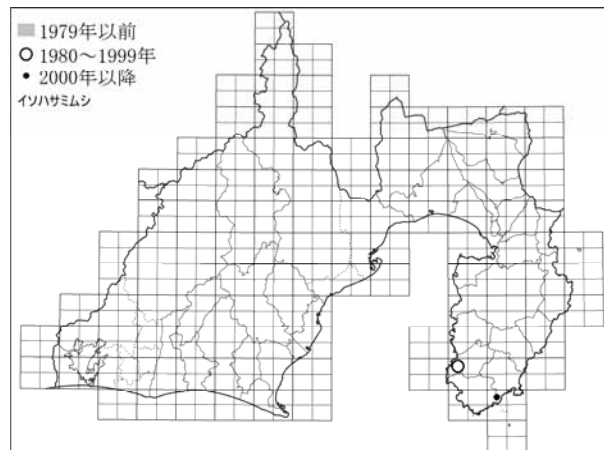
9. 標本

下田市産：個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(石川 均)



下田市吉佐美 2018年9月3日 石川 均



1. 種の解説

体長 52～66 mm。前肢基節下側の黒紋には真っ黒なものや中央が黄色いものがある。緑色型と淡褐色型が知られる。卵越冬で年1化、卵嚢は石や枯れ木などの下に産付され、丸くふくらんだ楕円形をしている。成虫は9～11月にかけてみられる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア沿海州、旧北区、東南アジア、アフリカに、国内では本州、四国、九州、南西諸島などに分布する。県内では西部に分布する。

3. 生息環境

海岸草地、河川敷や原野、茅場のように適度に管理された草原に生息するが、本土では生息地は限られている。県内の生息地はヨシがまばらに生える湿地である。

4. 生息状況

県内における正式な記録はなく、十分な情報がえられていないためよくわからないが、生息密度はかなり低いものと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移進行による樹林化(54)は本種の生息に大きな脅威と考えられる。

6. 保護対策

県内の生息地は県立自然公園に指定されているが、本種の保護に直接的効果はない。

7. 特記事項

現状では、県内では西部の唯一ヶ所が確実な生息地である。

8. 主な文献

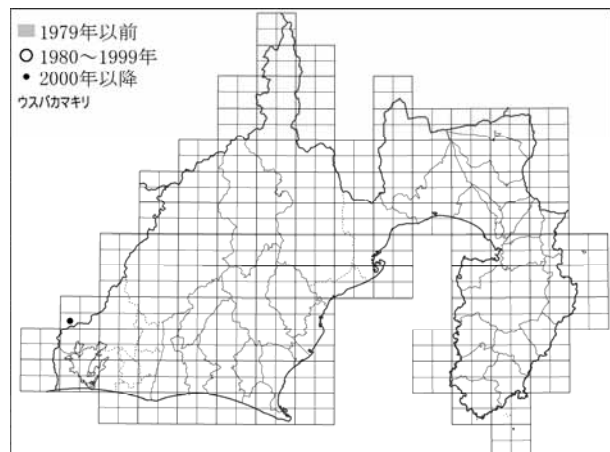
日本直翅類学会 編 (2016) 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス, 東京, 384 pp.

9. 標本

浜松市北区三ヶ日町産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 H. Ishikawa
浜松市北区三ヶ日町 2013年9月19日 石川 均



(石川 均)

オオオカメコオロギ *Loxoblemmus magnatus* Matsuura, 1986 (“ 1985 ”)

コオロギ科 Gryllidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-b) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長オス 16~19 mm、メス 17~20 mm。大型のオカメコオロギの仲間で、オスの顔面は他のオカメコオロギのように窪まず、やや突出する。メスはミツカドコオロギ *L. doenitzi* Stein, 1881 によく似ているが、産卵管が長いことで区別できる。鳴き声は同属中で最も低く、「ルッルッルッ…」と太い声で聞こえる。成虫は8~10月に出現する。

2. 分布

国外では韓国に、国内では本州（宮城、新潟、埼玉、千葉、神奈川、長野、静岡、三重、滋賀、山口）、四国（徳島）、九州（熊本）に分布するが、いずれの産地も局所的である。県内では御殿場市、裾野市、三島市、伊豆の国市（旧中伊豆町）、東伊豆町、伊東市、富士宮市、静岡市、御前崎市（旧浜岡町）、掛川市（旧大東町）、浜松市（旧浜松市、旧天竜市）に分布しているが、生息地は局所的である。

3. 生息環境

海岸砂丘地帯の松林内やその周囲の草地、ススキが疎に生えた草原、火山灰地帯の畑地及びその周囲の草地、大河川の砂礫地など比較的乾燥した環境に生息している。植物が密に生えた環境には通常生息しないが、大室山や東富士演習場ではススキ草原の中に生息している。

4. 生息状況

何かの条件によって大発生することがたまに見られるが、ふつうはいずれの生息地でも生息密度は低い。生息地は限定されているうえ確認できなくなった産地も多い。しかし、新たな生息地も確認されていることから減少の程度は十分に把握できていない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の人為管理が行われず放棄されると急激に個体数が減少する（53）場合がある。草地開発（16）は、生息の脅威となる。

6. 保護対策

東伊豆町の細野高原は、高原内の湿原が県の天然記念物で、その周囲のススキ草原は毎年山焼きが行われ維持されている。また、伊東市の大室山は国の天然記念物でこのススキ草原も毎年山焼きが行われ維持されている。東富士演習場も毎年山焼きが行われている。そのほかの産地では特になし。

7. 特記事項

分布が局所的であることから移動能力は小さいと考えられる。静岡県三島市の箱根西麓が基準産地である。

8. 主な文献

Matsuura, I. (1985) [1986]. A new species of *Loxoblemmus* (Orthoptera, Gryllidae). *New Entomol.*, 34(1/2): 11-13

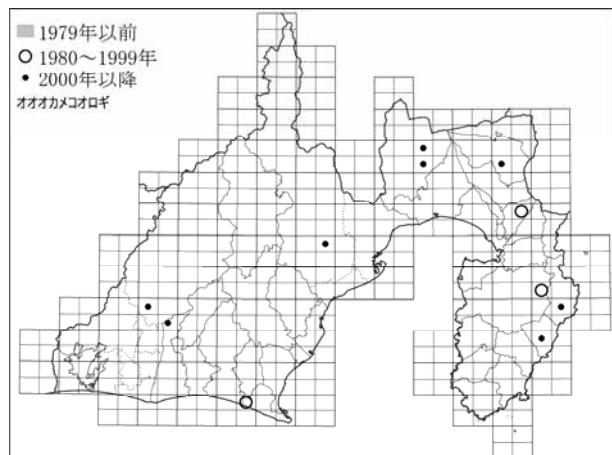
9. 標本

三島市産：大阪市立自然史博物館所蔵(ホロタイプ、パラタイプ)

(石川 均)



©2019 H. Ishikawa
静岡市葵区足久保 2009年10月3日 石川 均



アマギササキリモドキ *Gibbomeconema odoriko* Ishikawa, 1999

ササキリモドキ科 Meconematidae

静岡県カテゴリ 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリ 情報不足(DD) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

体長オス 9.0~9.7 mm、メス 10.0~10.5 mm。鮮緑色をした小型のササキリモドキ科昆虫で、翅は短く腹部第3節に届く程度である。前胸背板には光沢あるチョコレート褐色の大きな紋があり美しい。オスの第3腹節背板には黄褐色の光沢あるコブ状突起がある。本種の前脚脛節下面には棘がなく、通常そこに可動棘をもつ短翅ササキリモドキ類としては特異である。成虫は8月頃出現し10月まで見られる

2. 分布

静岡県内にのみ生息する日本固有属・種で、伊豆半島天城山周辺に分布する。今までに確認された場所はわずか4ヶ所で、詳しいことはわかっていないが標高約400~600 mの間で採集されている。

3. 生息環境

森林に生息すると思われるが、詳細は不明である。確認地点付近の植生は、下層植生の豊富なスギ壮齢林及び落葉広葉樹林である。スギ大径木の樹幹で採集される例が多く、スギと関係があると思われる。

4. 生息状況

今までに採集されているのは、4ヶ所で合計20個体に満たない。また、基準産地の伊豆市湯ヶ島の滑沢渓谷では最近発見できない。確認が容易でないことから、特殊な生態を有している可能性がある。飼育下ではスギの樹皮下に産卵したという観察例がある。

5. 減少の主要因と脅威

確認された個体数は少なく、また確認が容易でないため生息状況の変化を把握できていないが、生息が確認されている天城山の400~600 mの標高帯における大規模な森林伐採(11)は本種の生息に影響を及ぼすことが考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

静岡県の伊豆半島、それも天城山のヤブツバキ帯にのみ生息する固有属・種であるが、生態がよくわかっていない。保全対策が必要となった場合に対応できるように、より詳細な分布状況と生態の解明が望まれる。

8. 主な文献

Kano, Y., O. Tominaga, I. Tabata, T. Befu, H. Ishikawa, T. Murai, T. Mitoki, H. Kawakita, H. Toshima & K. Takahashi (1999) Japanese brachypterous Meconematinae (Orthoptera, Tettigoniidae). *Tettigonia*, 1(2): 1-81

瀬長 剛 (2000) アマギササキリモドキの産卵行動をみた. バッタリギス, (145): 65-66

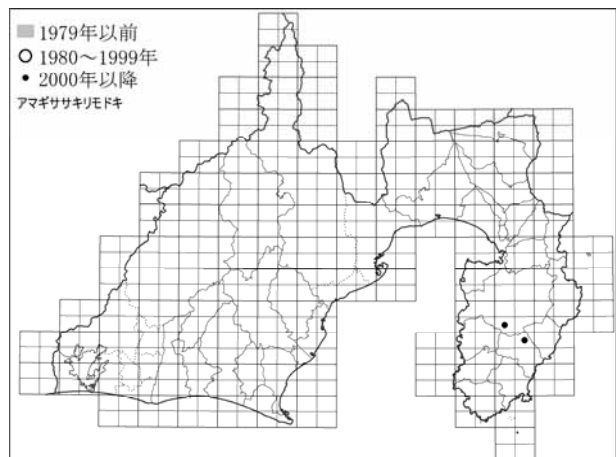
9. 標本

伊豆市湯ヶ島産: 大阪市立自然史博物館所蔵 (ホロタイプ、パラタイプ)

(石川 均)



伊豆市湯ヶ島 2014年9月29日 石川 均



テカリダケフキバツタ *Parapodisma caelestis* Tominaga & Ishikawa, 2001

バッタ科 Acrididae

静岡県カテゴリ 情報不足(DD) (要件-abc)変更なし

[2004年版カテゴリ 情報不足(DD) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

体長オス 19.5~25.4 mm、メス 22.0~30.1 mm。翅が小さい高山性のフキバツタの一種である。体色は黒みが強く、特に若齢幼虫期は真っ黒である。メスアカフキバツタ *P. tenryuensis* Kobayashi, 1983 にやや似ているが、より小型で黒い体色とオス尾肢の形状により区別できる。孵化はおそらく 7 月中旬頃と思われ、8 月上旬には中齢幼虫が多く見られ 9 月上旬になると成虫が目立つようになる。成虫は 8 月下旬から 10 月に出現する。

2. 分布

南アルプス固有種で、きわめて狭い範囲に分布する種である。今まで確認されているのは光岳周辺、上河内岳付近、聖岳、悪沢岳、池口岳付近、大日影山付近などで、光岳と上河内岳付近以外では生息数はきわめて少ない。生息地は長野県飯田市(旧南信濃村)・下伊那郡大鹿村と静岡県静岡市・川根本町であるが、主要な生息地は静岡市側にある。

3. 生息環境

高山にある“お花畑”が主要な生息環境と思われるが、稜線部のガンコウラン群落にも時々見られる。生息地は狭く非常に急傾斜な場所となっている。

4. 生息状況

ここ数年個体数に大きな変化は見られていないが、生息密度は一般に非常に低い。

5. 減少の主要因と脅威

減少している情報はないが局所的で個体数が少ないことから、近年高山帯に出現が目立つホンドリツネやニホンザルなどの野生動物による捕食(71)も脅威となりうる。

6. 保護対策

生息地のほとんどは国立公園特別保護地区及び第一種特別地域に指定されている。

7. 特記事項

高山の厳しい環境に生息しているかつ分布が局所的で個体数が少ないことから、今後も注目していく必要がある。

8. 主な文献

Tominaga, O. & H. Ishikawa (2001) A new species of the Genus *Parapodisma* (Orthoptera: Acrididae) from Honshu, Japan. *Tettigonia*, 3: 27-32

株式会社環境アセスメントセンター(1998) テカリダケフキバツタ. 南信濃村動物誌-遠山郷に生きるどうぶつたち-, p. 150. 南信濃村教育委員会, 長野県南信濃村.

四方圭一郎・米山富和・金子岳夫・岸本年郎(2017) 赤石山脈南部上河内岳におけるテカリダケフキバツタの新産地. 伊那谷自然史論集, (18): 35-38

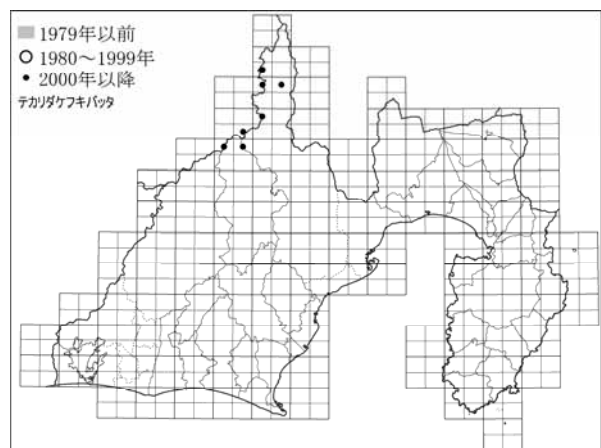
9. 標本

静岡市南アルプス光岳産: 大阪市立自然史博物館所蔵(ホロタイプ、パラタイプ)

(石川 均)



南アルプス光岳 2009年9月19日 石川 均



1. 種の解説

体長 6.5~9.0 mm。黒色で銀白色微毛を密生、肢は黄褐色だが、前肢腿節は基部を除き黒色。体は細長い紡錘形、長翅型と微翅型が知られ、微翅型の出現率は高いとされる。最普通種のヒメアメンボに似るが、明らかに小型で若干寸詰まりの感がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（極東、東シベリア）に、国内では北海道、本州、九州（福岡県）に分布する。県内では静岡市葵区足久保口組諸川池、磐田市桶ヶ谷沼、浜松市南区松島町の記録がある。

3. 生息環境

ヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼に生息する。抽水植物間の閉鎖水面を好み、開放水面に出ることはほとんどないようである。

4. 生息状況

県内では 3ヶ所の池から記録されているに過ぎず、詳細な生息状況は不明である。静岡市諸川池及び磐田市桶ヶ谷沼では数回の調査を行ったが、生息を確認することはできなかった。浜松市松島町の生息地の池の一つでは、2003年まで生息が確認されていたが、その後著しく水質が悪化し、本種を含むほとんどすべての水生昆虫が見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

県内の既知生息地では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)などが脅威となる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

県内では生息地の数や生息環境の現状を考慮すると、エサキアメンボ *Limnopus esakii* (Miyamoto, 1958) より危機的な状況にあると考えられるが、評価するに足る情報が不足している。

8. 主な文献

- 井上智雄 (1988) エサキアメンボとババアメンボが棲む桶ヶ谷沼. 昆虫と自然, 23(13): 21
- 北野 忠 (2000) 静岡県及び静岡県近海で確認された水生半翅目. 遠州の自然, (23): 1-8
- 杉山恵一 編 (1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. (財) 日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

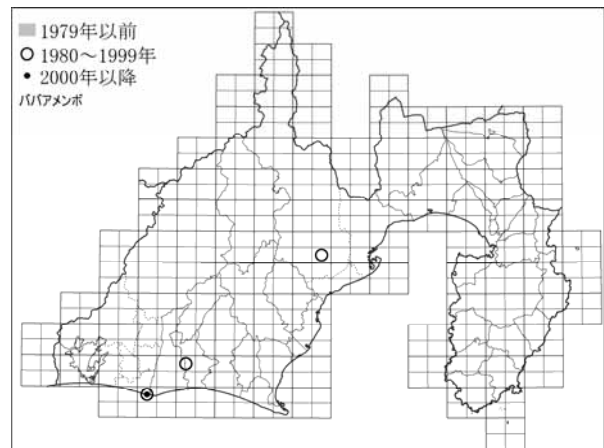
9. 標本

浜松市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）

(多比良嘉晃)



©2019 Y.Tahira
浜松市南区産 2003年4月29日 多比良嘉晃採集



1. 種の解説

体長 18～22 mm。暗灰褐色で光沢を欠く。おおむね長卵形で、背面はほぼ平坦、前肢は腿節が肥大し、脛節は少し湾曲、跗節は1節で鉤状を呈し、全体として捕獲脚を成す。中・後肢は通常の歩行脚で、中肢はやや短い。尾部の呼吸管はタイコウチと比較してはるかに短い。

湿地の浅い水域のコケや落葉の間、植物の根際などに見られ、肉食性で、小昆虫や小節足動物を捕えて体液を吸汁する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（ウスリー地方）に、国内では本州と四国に分布する。本州では静岡県西部から愛知県・岐阜県にかけてと兵庫県を中心とした地域とに生息し、四国では香川県に分布する。県内では浜松市中区、湖西市新所・太田・梅田で記録があり、湖西市大知波での採集例がある（未発表）。

3. 生息環

湧水のある湿地に生息する。

4. 生息状況

浜松市と湖西市の数ヶ所の湿地から記録されているが、詳細な生息状況は不明である。浜松市の生息地は環境が改変されていて、現在も生息している可能性は低い。湖西市では 2000 年頃には個体数は少ない場所もあったが、採集例が少ないため、評価するに足る情報が不足している。

5. 減少の主要因と脅威

県内の既知生息地は、多くは民有地であり、特に保全措置は取られていないため、開発などによる湿地の消滅（15-1）が危惧される。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

愛知県では、減少しているようではあるものの、未だ多くの生息地が確認されており、県内でも西部、特に浜名湖以西では新たな生息地が発見される可能性がある。

8. 主な文献

長谷川道明・佐藤正孝・浅香智也（2005）ヒメタイコウチの分布，付関連文献目録．豊橋市自然史博物館研報，（15）： 15-27

井上智雄（1981）浜名湖西岸にヒメタイコウチ．昆虫と自然，16(2)： 31

北野 忠（2000）静岡県及び静岡県近海で確認された水生半翅目．遠州の自然，（23）： 1-8

渡辺一雄（1964）ヒメタイコウチを浜松市内で採集．駿河の昆虫，（45）： 1246

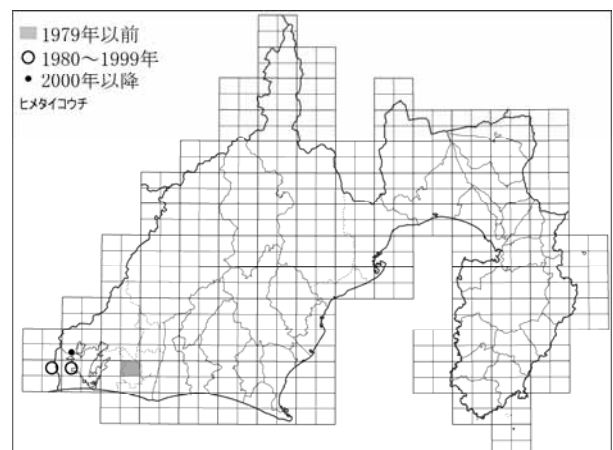
9. 標本

湖西市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）

（多比良嘉晃）



湖西市産 1992年10月13日 石川 均採集



ウミホソチビゴミムシ *Perileptus (Perileptus) morimotoi* S. Ueno, 1955

オサムシ科 Carabidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 1.8~2.3 mm。黒褐色で触角、口器、肢などは黄褐色、おおむね細長いヒョウタン形で腹背に扁平、複眼は比較的小さく、複眼後方の頬は明瞭、口器の大腮はよく発達し前方へ突出し、前胸背板は後方へ強く狭まり、翅鞘は両側ほぼ平行で第3間室に3孔点を有する。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州、奄美大島に分布するが、局地的である。従来の分布の東限は和歌山県であった。県内では下田市田牛の記録がある。

3. 生息環境

河口などの潮間帯に生息し、満潮時には完全に海面下に水没するような石の下に見られる。

4. 生息状況

県内では1例の記録があるのみで、詳細な生息状況は不明である。下田市では岩礁海岸にある小規模な砂浜の少し泥質地の石の下からえられているが、生息密度はきわめて低かった。

5. 減少の主要因と脅威

県内の生息地では、生息範囲がはなはだ狭いため、些細な原因(71)で容易に生息環境が破壊されるおそれがある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

本種は河川敷に生息する同属の他種より暗色である点が特徴の一つであるが、検視個体は未成熟で淡黄褐色を呈しており、成熟個体による検討が必要と思われる。

8. 主な文献

多比良嘉晃・松本雅道(2000) 静岡県の海岸性甲虫相. 環境システム研究, (7): 39-71

田中昭太郎(1987) 和歌山県の歩行虫類(1). Kinokuni, 26: 24-26

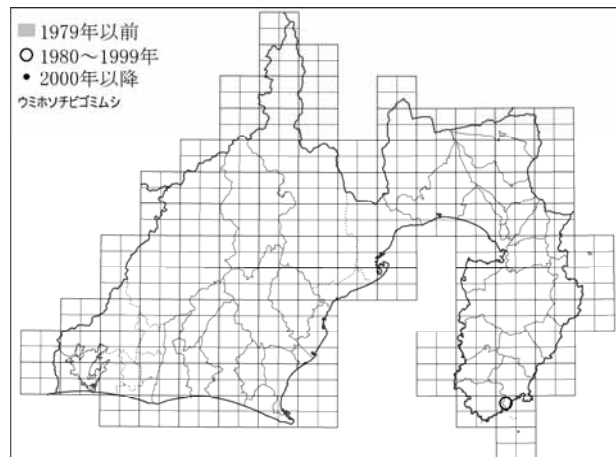
Ueno, S. (1955) Studies on the Japanese Trechinae (III) (Coleoptera, Harpalidae). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 4(2-3): 179-193

9. 標本

下田市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



下田市田牛産 1999年9月26日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃)

コガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (Sharp, 1873)

コガシラミズムシ科 Haliplidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長 3.1~3.6 mm。黄褐色で翅鞘の大点刻列は黒色、翅鞘には数個の多少とも不分明な黒色小斑を装う。体はやや幅広い倒短卵形で、腹背に厚く、翅端は三角形に突出する。後肢基節は板状に大きく発達して腹部第1~5節を覆い、後縁に1鋭棘を具える。

成虫・幼虫ともにアオミドロなどの藻類を食べ、成虫は動物質のものも食べる。成虫は夜間、灯火に飛来することがある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、極東ロシアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆半島と浜松市南区松島町で記録があり、下田市茅原野、御殿場市柴怒田・山之尻・中畑、牧之原市白井、浜松市北区引佐町で採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

水生植物の豊富な池沼に生息する。かつては池沼や水田にふつうに見られたらしいが、現在では県内の生息地は局限されている。

4. 生息状況

普通種であったと言われるが、県内の記録は少なく、詳細な生息状況は不明である。御殿場市では水田の一角のイネを植えていない水域や放棄水田の水溜まりなどにも見られた。場所によっては個体数は少なくなかったが、いずれにしても県内での分布は局地的である。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て、ため池の近代的護岸化(12)、農薬・肥料などによる水質汚染(32)、植生遷移の進行や富栄養化に伴う水質悪化(54)、捕食性外来生物の侵入(52-3)などにより生息環境が狭められている。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

御殿場市では直近の調査でも生息が確認された。

8. 主な文献

北野 忠 (2011) かつては水生昆虫の楽園 遠州浜の後背湿地. 水生昆虫大百科 2011 年度特別展「およげ! ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~」展示解説書, pp. 90-92. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

北野 忠・石田和男 (2000) 遠州地方で確認された水生鞘翅目. 遠州の自然, (23): 9-14

Vondel, B. J. (1995) Haliplidae: Review of the Haliplidae of China (Coleoptera). in Jach & Ji (eds.), *Water Beetles of China, I.*, pp. 111-154. Zoologisch-Botanische Gesellschaft in Österreich and Wiener Coleopterologenverein, Vienna.

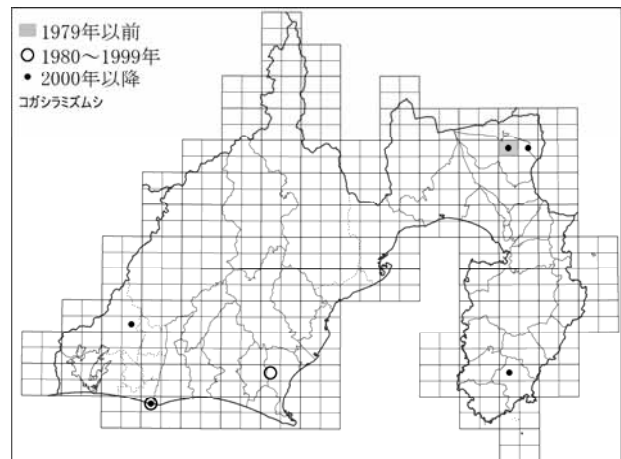
9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 H. Ishikawa

浜松市産 2014年7月23日 石川 均採集



(多比良嘉晃)

クビボソコガシラミズムシ *Halipus (Haliplinus) japonicus* Sharp, 1873

コガシラミズムシ科 Haliplidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 情報不足(DD)]

1. 種の解説

体長 2.7~3.3 mm。黄褐色で頭部は暗赤褐色、翅鞘の会合部と点刻列の点刻は黒色、各翅鞘中央には 4 小黒斑を歪四辺形に配列するが、しばしば不明瞭。体は倒卵形で翅端は三角形に突出する。前胸背板基部両側は短縦条を具え、後肢基節は板状に発達して腹部第 1~3 節を覆い、後縁は微細剛毛を列生し、棘を欠く。

成虫は、夜間、灯火に飛来することがある。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内ではデータを伴った正式な記録はないが、富士宮市猪之頭、富士宮市沼久保、富士市五貫島で採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

水生植物の豊富な河川のよどみや湧水が流れ込む湿地・池沼・休耕田などに生息する。

4. 生息状況

県下での採集例が少なく、生息状況は不明である。富士市五貫島では海岸堆積物の下よりえられた。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立てや護岸工事など (12) によって生息環境が失われるおそれがある。本種が確認された富士宮市沼久保の池は釣り人によってブルーギルやブラックバスが放流されており、影響が懸念される (52-3)。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

富士宮市沼久保の池の周辺（富士川本流側）は、以前はヤナギ類などが生える一般的な植生の河川敷であったが、近年、公園化されて植生がほとんどなくなったようである。

8. 主な文献

中根猛彦 (1985) 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32(2): 61-67

佐藤正孝 (1984) 日本産水棲甲虫類の分類学的覚書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4

Vondel, B. J. (1995) Haliplidae: Review of the Haliplidae of China (Coleoptera). in Jach & Ji (eds.), *Water Beetles of China, I.*, pp.111-154. Zoologisch-Botanische Gesellschaft in Österreich and Wiener Coleopterologenverein, Vienna.

9. 標本

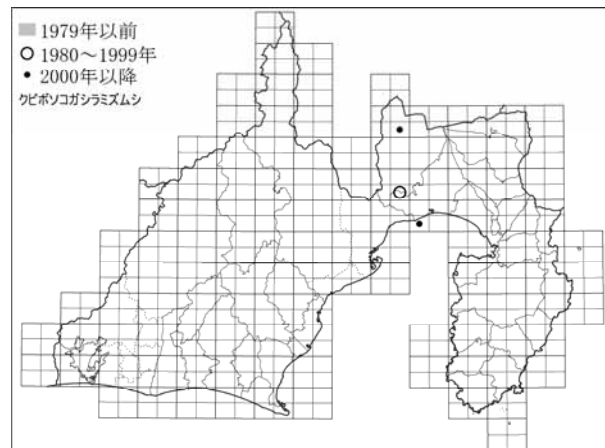
富士宮市産、富士市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）

(多比良嘉晃)



©2019 Y.Tahira

富士宮市猪之頭産 2006年8月20日 多比良嘉晃採集



クロホシコガシラミズムシ

Halplus (Liaphlus) basinotatus latiusculus Nakane, 1985

コガシラズムシ科 Haliplidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD)(要件-abd)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

1. 種の解説

体長 3.5~3.9 mm。黄褐色で翅鞘は各 10 個内外の小さいが明瞭な黒斑を装い、基縁と会合部も細く黒色を呈する。体は倒卵形で翅端は三角形に突出する。前胸背板基部両側に短縦条を欠き、後肢基節は板状に発達して腹部第 1~3 節を覆い、後縁に棘を欠く。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では浜松市南区松島町で記録されている。基準亜種は朝鮮半島、中国、極東ロシアに分布する。

3. 生息環境

水生植物の豊富な池沼、湿地、水田などに生息するが、湧水河川からえられた記録もある。

4. 生息状況

採集例が 1 例のみで、詳細な生息状況は不明である。浜松市南区松島町では、水生甲虫類が豊富な池でコガシラミズムシに混じってただ 1 個体が採集された。同池においてはその後の 10 数回の調査においても追加個体は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

浜松市南区松島町の生息地では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)、ブルーギルなどの捕食者の増加(52-3)などによって生息が困難になっていると考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

本種がえられた池は、その後、種々の水生昆虫が激減している。

8. 主な文献

北野 忠(2011) かつては水生昆虫の楽園 遠州浜の後背湿地。水生昆虫大百科 2011 年度特別展「およげ! ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~」展示解説書, pp. 90-92. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原。

中根猛彦(1985) 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討。北九州の昆虫, 32(2): 61-67

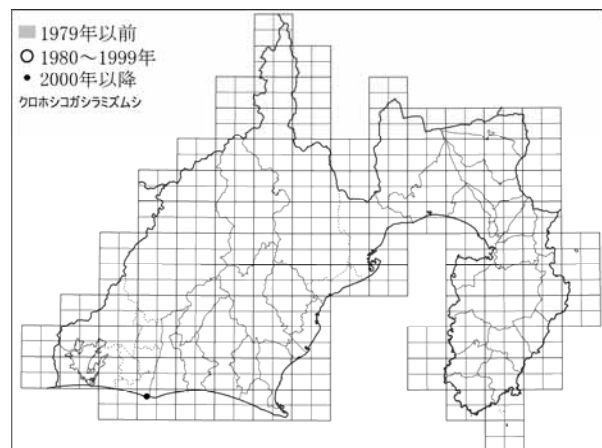
佐藤正孝(1984) 日本産水棲甲虫類の分類学的覚書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4

9. 標本

浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



浜松市南区産 2000年8月26日 撮影: 北野 忠



(多比良嘉晃)

マダラコガシラミズムシ *Halplus (Liaphlus) sharpi* Wehncke, 1880

コガシラミズムシ科 Haliplidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

1. 種の解説

体長 3.0~3.5 mm。黄褐色で翅鞘の肩部をのぞく基縁と会合部は広く黒色、各 6 個内外の明瞭な黒斑を装い、会合部中央斑は背部中央前の紋と合着する。体は倒卵形で翅端は三角形に突出する。前胸背板基部両側に短縦条を欠き、後肢基節は板状に発達して腹部第 1~3 節を覆い、後縁に棘を欠く。

成虫・幼虫ともに植食性で、主にシャジクモ類を食するといわれ、成虫は飼育下では動物質のものも食べるという。

2. 分布

国内では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では賀茂郡南伊豆町で記録があり、下田市吉佐美、富士宮市沼久保で採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

平野部の水生植物の豊富な池沼、湿地、水田、水田脇の水路、休耕田などに生息する。

4. 生息状況

採集例が少なく、詳細な生息状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立てや護岸工事(12)、水田及びその周辺水域の圃場整備(15-2)、農薬・肥料などの流入による水質汚染(32)などによって生息環境が失われている。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

賀茂郡南伊豆町では水田の植物の根際から、下田市吉佐美では海岸堆積物の下よりえられた。

8. 主な文献

中根猛彦(1985) 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32(2): 61-67

佐藤正孝(1984) 日本産水棲甲虫類の分類学的覚書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4

佐野慎吾(2017) 伊豆半島におけるマダラコガシラミズムシの記録. 月刊むし, (559): 55

渡辺晃平・日鷹一雅(2013) 四国南西部の水田におけるマダラコガシラミズムシ成虫の発生動態. 保全生態学研究, 18: 101-105

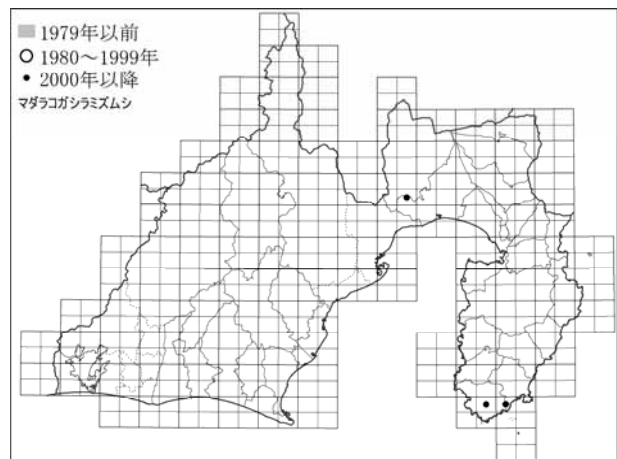
9. 標本

富士宮市産、下田市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 Y.Tahira

下田市吉佐美産 2012年5月13日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃)

キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus niponensis* (Kamiya, 1938)

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧(NT)]

1. 種の解説

体長 3.0~3.2 mm。幅広い倒卵形で後方へ強く細まり、背面は著しく凸隆する。体は黄赤褐色で強い光沢を有し、上翅は黒褐色で 6 対内外の黄色小斑を装うが、上翅の黄色小斑は種々の程度に変化するという。

清流の流れが緩やかで水深が深いところの水面付近の草、植物の根際、枯れ枝などが溜まっているような場所に見られる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。国内の分布は広いが、かなり局地的である。県内からの正式な記録はないようであるが、駿東郡清水町柿田川で確認されている(未発表)。

3. 生息環境

低山地から山地の清流に生息する。湧水を水源とするとはいえ、平地の柿田川で発見されたことは興味深い。

4. 生息状況

県内では柿田川から確認されているだけで、同所における個体数は少ない。県内の詳細な生息状況は不明であるが、県西部地域でも採集されているようで、県内の清流に広く生息している可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

河川工事による河床や岸辺の攪乱(13)により生息環境が破壊されるおそれがある。

6. 保護対策

柿田川は民間団体による熱心な保全活動が行われている。

7. 特記事項

本種は採集時に刺激を受けると 20~30 cm ほど跳ねることがある。

8. 主な文献

森 正人・北山 昭(2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 231pp.

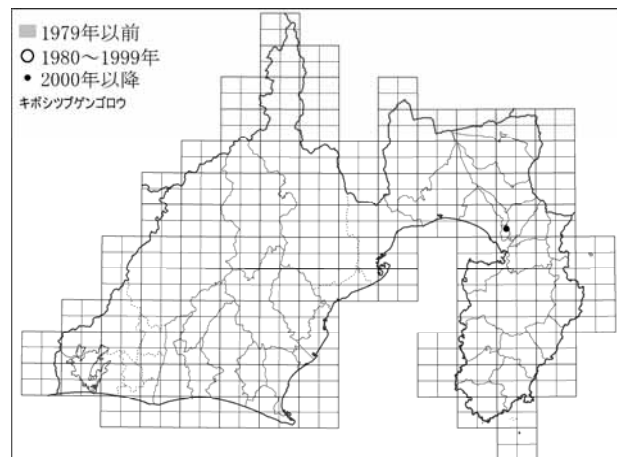
上手雄貴・池田都志也(2010) 愛知県におけるキボシツブゲンゴロウの記録. 甲虫ニュース, (170): 30

9. 標本

駿東郡清水町産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



清水町柿田川産 2003年10月19日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃)

1. 種の解説

体長 13~14 mm。背面は黄赤褐色で光沢鈍く、頭部複眼内側と前胸背板中央の小円紋などは黒色、翅鞘は周縁部をのぞき黒色小点斑を密布して暗灰褐色に見え、腹面は黒褐色を呈する。体は卵形で腹背にかなり扁平、背面は全体に明瞭な網状印刻を装う。

幼虫はユスリカ類やガガンボ類の幼虫などを捕食する。

2. 分布

国外では済州島、中国に、国内では北海道、本州(中部以北)、伊豆大島、八丈島、九州(宮崎県)に分布する。国内の分布は局地的で、記録がある所は7道県にすぎない。県内では富士市桑崎・大淵、富士宮市猪之頭・北山・村山で記録があり、富士宮市栗倉・山宮で採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

森林内の比較的暗い環境の涸れ沢の落葉が堆積しているような小規模な水域に生息する。このような水域には他の水生生物はほとんど見られない。

4. 生息状況

静岡県では富士山山麓部のみから記録されている。涸れ沢に点在する上記のような水溜まりに生息し、生息場所での個体数は多いようである。富士宮市では本種が生息する涸れ沢のすぐ脇まで工場団地が造成され、本種の存続が危惧されたが、涸れ沢自体は残され、個体数はわずかだが最近でも生息していることが確認できた。

5. 減少の主要因と脅威

工場団地の造成(23)や河川改修(13)の影響で生息環境が破壊・消滅するおそれがある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

富士市桑崎では直近の調査でも生息が確認された。

8. 主な文献

神奈川県立博物館 編(1995) 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8): 1-66

北野 忠(2000) 静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川自然保全研究会報告書, (15): 17-24

平井克男(2009) 富士宮市猪之頭のエゾヒメゲンゴロウ. 駿河の昆虫, (228): 6321

丸山宗利(1998) 静岡県のゲンゴロウ2種の記録. 月刊むし, (329): 39-40

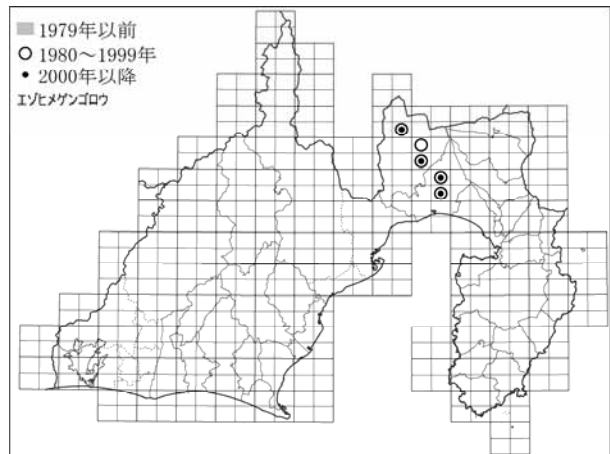
森 正人・北山 昭(2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 231pp.

9. 標本

富士宮市産: 神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵



富士宮市産 1986年8月11日 石川 均採集



(多比良嘉晃)

シワムネマルドロムシ *Georissus kurosawai* Nakane, 1966

マルドロムシ科 Georissidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長 1.5~1.6 mm。灰黒色で光沢を欠く。おおむね歪長球形で砂粒様、頭部はイカリ状の溝を有し、前半に顆粒を欠き、前胸背板は大小数対の浅い凹陷を具え、翅鞘は浅い粗大点刻列を有し、間室に顆粒を欠く。

成虫は水辺の砂中からえられ、灯火に飛来する習性がある。

2. 分布

日本固有種で、北海道と本州に分布する。分布は比較的広いが生息地は局地的である。県内では静岡市安倍川上流「大の木」の記録があり、他に駿東郡小山町中島川、静岡市駿河区中島安倍川河口付近で採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

成虫は河川の上・中流域の水辺の砂上などで見出されるが、背面に泥が付着していることが多く、発見は困難である。また、そのような環境に近い場所の灯火に飛来した個体が採集されることが多い。

4. 生息状況

県内では採集例が少なく、詳細な生息状況は不明である。静岡市駿河区中島では河川増水後に河川敷の堆積物のシフティングで採集された。

5. 減少の主要因と脅威

河川の改修工事や近代的護岸化など（13）により生息環境そのものが破壊されるおそれがある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

本種は発見することが困難なだけで、実際には河川の上・中流域に普遍的に生息している可能性がある。

8. 主な文献

平井克男（2003）シワムネマルドロムシの記録. 駿河の昆虫, (209): 5828

Nakane, T. (1966) New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXIII. *Fragmenta Coleopterologica, Tokyo*, (14): 55-58

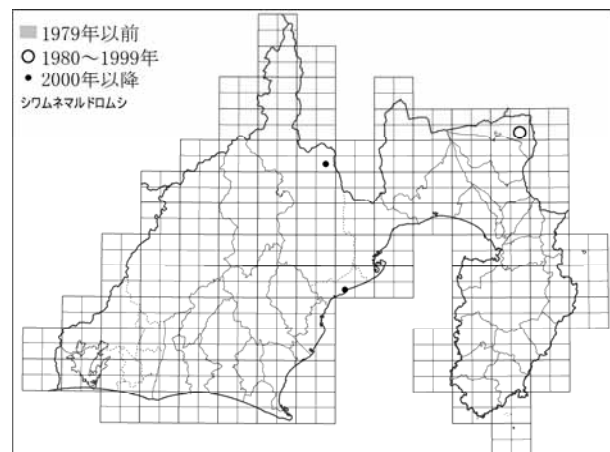
佐藤正孝（1981）日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, (53): 1-4

9. 標本

静岡市産、小山町産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 Y.Tahira
静岡市駿河区産 2009年10月10日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃)

ヤマトマルドロムシ *Georissus (Neogeorissus) japonicus* M. Satô, 1972

マルドロムシ科 Georissidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長 1.4~1.5 mm。灰黒色で光沢を欠く。おおむね歪球形で砂粒様、頭部は小さく、前半は顆粒を装い、後半に顆粒で囲まれた凹陷を具え、前胸背板は 5 凹陷を有し明瞭な顆粒を装い、翅鞘は縦条溝を具え、間室は縦稜条に隆起し密に顆粒列を有する。

県内では海岸後背湿地で見られ、5~10月に採集されている。

2. 分布

日本固有種で、本州に分布する。従来は新潟県から正副基準標本がえられているだけであったが、その後、茨城県と埼玉県で記録されている。県内では浜松市南区松島町で記録があり、他に富士市五貫島富士川河口と浜松市南区中田島町中田島砂丘で採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

池沼に生息し、落葉に付着しているといわれる。県内では海岸後背湿地にできた浅い池に生息しており、岸辺の砂泥上や干上がった池の底部の湿った砂泥上を歩行中の個体が発見される。

4. 生息状況

浜松市では複数年にわたり確認されており、個体数も少なくない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸後背湿地の開発・改修、埋め立てなど(15-1)は本種の生息環境を破壊する直接的な脅威となる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

体が微小で砂粒に類似しており、野外で成虫を発見すること自体がきわめて困難であるが、他の場所の同様な環境に生息している可能性はある。

8. 主な文献

平井克男(2003) ヤマトマルドロムシの記録. 駿河の昆虫, (201): 5628

岩田朋文・岩田泰幸(2012) 埼玉県におけるマルドロムシ科の追加記録. さやばねニューシリーズ, (6): 18-19

北野 忠(2011) かつては水生昆虫の楽園 遠州浜の後背湿地. 水生昆虫大百科 2011 年度特別展「およげ! ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~」 展示解説書, pp. 90-92. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

Satô, M. (1972) The georissid beetles of Japan. *The Journal of Nagoya Women's College*, (18): 207-213

佐藤正孝(1981) 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, (53): 1-4

高野 勉・大桃定洋(2008) 茨城県産甲虫リスト補遺(2). るりぼし, (36): 18-37

9. 標本

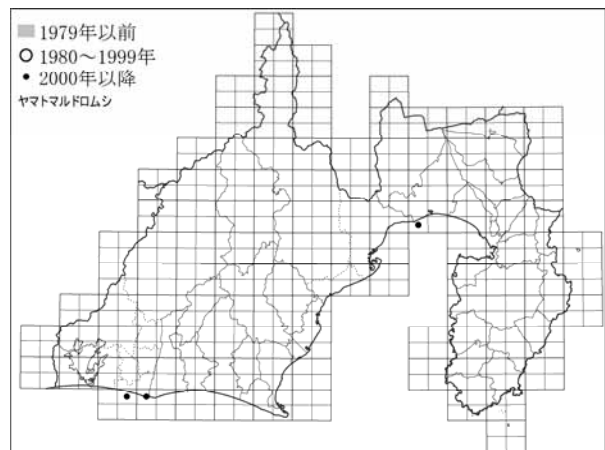
浜松市産、富士市産：個人所蔵(公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 Y.Tahira

浜松市南区産 2006年6月19日 多比良嘉晃採集



クロコブセスジダルマガムシ *Neochtebius granulosus* (M. Satô, 1963)

ダルマガムシ科 Hydraenidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abd) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長 1.45~1.60 mm。黒色で光沢を欠き、背面は大小の顆粒を装う。体は細長いヒョウタン形、触角は短く、第1節は他節より長大、先端部5節は棍棒状の球桿を形成する。

成虫は一年中みられ、春~秋季には岩の表面を活発に歩行し、冬季は岩の隙間の泥土中で、集団で越冬するという。

2. 分布

日本固有種で、本州の関東地方から静岡県にかけての沿岸部と三宅島に分布する。県内では下田市(副基準標本)と伊東市新井の記録がある。

3. 生息環境

関東・中部地方の太平洋側の海岸岩礁の潮間帯に生息し、岩礁に生えた海藻類の根際や岩の隙間に見られる。伊東市では満潮時には海面下に完全に水没する岩の根元に堆積した人頭大の石からえられた。

4. 生息状況

県内では記録が少なく、詳細な生息状況は不明である。体が微小であることと、生息環境が特殊であることから、本種の発見は一般に困難であるが、少なくとも伊豆半島の自然岩礁海岸には広く生息している可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

岩礁海岸の護岸工事などによる改変(14)は生息環境を喪失させる直接的な脅威となる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

千葉県や神奈川県三浦半島の岩礁海岸では広く分布し、個体数も少なくないという。

8. 主な文献

浅野 真・川島逸郎・小野広樹(2012) 三浦半島の海浜における昆虫類の記録, 第1報. 神奈川自然誌資料, (33): 65-74

Jäch, M.A. & J.A. Delgado (2014) Revision of the Palearctic species of the genus *Ochthebius* LEACH XXIX. The Asian species of the *O. vandykei* group (Coleoptera: Hydraenidae). *Koleopterologische Rundschau*, 84: 81-100

小野広樹・亀澤 洋・菅谷和希(2012) 千葉県における海岸性甲虫2種の記録. さやばねニューシリーズ, (5): 47-48

Sato, M. (1963) A new intertidal species of the genus *Ochthebius* Leach from Japan (Coleoptera: Hydraenidae). *Transactions of the Shikoku entomological society*, 7: 129-132

多比良嘉晃・松本雅道(2000) 静岡県における海岸性甲虫類. 環境システム研究, (7): 39-71

9. 標本

伊東市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 Y.Tahira

伊東市新井産 1999年9月19日 多比良嘉晃採集

